

9・10

2024 令和6年  
No.211



# 支本 所寸 たよ け 新 八 幡 宮

會勝瀨蓮

宮幡北

宮幡八

2024.9.10  
No.211

## 足助祭り

足助祭りは、10月の第2土曜・日曜日に行われる足助八幡宮の例祭です。かつての祭礼は5日間に及び、流鏝馬やぶさめが行われていたこともあったようです。今の形で行われるようになったのは1800年の前半で山車だしと鉄砲、棒の手が同じ場所で行われる県下でも珍しいお祭りです。

今回は、足助山車祭り保存会の会長である中野さんにお話を伺い、「足助祭り」の魅力に迫ります。



扇子型のパンフレットを持つ会長の中野幸彦さん

### 足助山車祭り保存会

平成17年の愛知万博で企画された「山車百輛総揃え」への参加に合わせ、平成15年に組織された団体。

現在は、祭りに関する活動を円滑に進めるための調整・協力の役割を果たし、他地区との交流を行うなど、祭りの発展に努めています。また、パンフレットの作成などの取組も行っています。



HPはこちらから→

### 足助祭りを盛り上げる「山車」

祭りに参加する山車は西町・新町・本町・田町の4台。これらは「足助型」と呼ばれる形態をしており、前方に出役棚を持つなど独自の形式をとっています。高さは、約6m50cmで、山車に付けられている幕や飾りは町ごとに違います。

足助祭り1日目を試楽祭しがくさい、2日目を本楽祭ほんがくさいと呼びます。試楽祭では、各町で山車を組んだ後、それぞれの町内を練り歩きます。本楽祭では、4つの町内を練り歩いた後に、八幡宮を目指します。八幡宮の境内を1周する「曳き回し」のあと、「梵天投げぼんてん」を行い、祭りのクライマックスを迎えます。その後は提灯を灯し、各町へ帰っていきます。順次、町についた山車まちさかいが町境で後列の山車を見送り、お祭りの労を互いにねぎらって別れていきます。



町内を練り歩く



町境で行われるすれ違い

## 祭りの見どころと魅力

特に夜車が見せ場です。暗闇に浮かぶ、たくさん  
の提灯を装備した山車の荘厳さと優美さを重ね  
た佇まい。そして、その山車の前でろうそくの火  
に照らされながら、大声で踊る出役の勇壮さの対  
比がみどころです。

また、八幡宮の前で祝詞とともに左右に投げら  
れる「梵天」は、1年間の無病息災を願い奪い合  
う人たちで、山車の周りが一層盛り上がります。

山車を見ると、つい上を見がちですが、運行中  
絶え間なくお囃子を演奏し、お祭りを盛り上げて  
いる囃子方や、山車を安全に取り廻し、自由自在  
に角を曲がったり一回転するぶん廻しを行う梶方  
にも注目です。



提灯を装備した4台の山車

「足助祭りは、自治会を一つにまとめ、町の大  
きな支えとなっています。」と話す中野さん。町  
の子どもからお年寄りまで一致団結して山車を動  
かすことにより連帯感が生まれ、地元の活性化に  
つながっています。

また、祭礼の主役は若い人（若連・若い衆）。  
祭礼の際には何度も集まり、お囃子をはじめとし  
た準備を協力して取り組んでいくことが、団結力  
の源になっています。

## 今後のお祭りについて

今後のお祭りについて中野さんは次のように話  
してくれました。

「少子高齢化により、祭りに携わる人が年々減  
少しています。山車を動かすには多くの人手が必要。  
いかにして減らさず増やすほうにシフトできる  
かが最大の課題です。

昔は男性のみが参加するお祭りでしたが、今は  
ほとんどの山車が女性も綱を引くことができるよ  
うになり、乗ることのできる町もあります。お祭  
りがなくなることは、町の存続に関わっており、  
いかにして存続するかを考えることが、町を維持  
していくことにつながっています。

フェスティバルやカーニバルにならずに、神事  
としての祭礼が今後も引き継がれていくことと、  
時代の変遷に合わせて柔軟に形を変えながら行う  
ことのバランスが求められていると考えます。」



宮入をする山車

### 取材動画公開中！

インタビューの様子をご覧  
いただけます。紙面には載せ  
きれなかった「足助祭り」へ  
の思いをぜひご覧ください！



町の人々が誇りを持ち、守り続けてきたこのお祭りは、幅広い世代が交流する場となり地域の活性化につながっています。少子高齢化が課題となっている中、伝統を尊重しつつも変化を加えながら、町に活気をもたらし続けて欲しいと感じました。

お祭りを守り続けている方々の思いを知ること、いつものお祭りの見え方が変わってくるかもしれ  
ません。今年の足助祭りは、10月12日（土）・13日（日）に行われます。ぜひお越しください！

（足助支所 内藤里奈）

# あすけ 羅針盤

**あすけ  羅針盤**は、足助地域会議委員が足助の魅力や元気な活動をお届けします。  
令和6年度わくわく事業団体のうち3団体の活動内容を紹介します！

## わくわく事業紹介

### 萩野NPO結の家（代表：山本薫久）

萩野・持続可能な地域づくり事業（申請回数：4回目）

- ・空き家の解消や森林・田畑の保全など地域課題を学び、交流を進めることで、住民による自主的なプロジェクトを育て、持続可能な地域づくりを推進することを目指しています。
- ・萩野小学校が「こどもの森」での遊具づくりをきっかけに地域づくりをテーマとした活動を始めています。「こどもの森」ではメルヘンな小屋づくりを「トンカン木工塾」で進めています。



「こどもの森」で学習する萩野小学校児童



総合的学習授業の様子



「トンカン木工塾」

## わくわく事業紹介

### 農村舞台寶榮座協議会（代表：青木信行）

農村舞台寶榮座を生かした文化による地域づくり事業（申請回数：8回目）

- ・築127年の歴史ある「農村舞台寶榮座」を核とした『芸術文化村』として怒田沢町を再生し、新たな農山村文化の創造的交流を推進することを目指しています。ライブコンサート春の宴、三州足助太鼓、七夕歌舞伎、落語寄席などの公演を通じて地域内外の交流を促進しています。



ライブコンサート春の宴の様子



三州足助太鼓の演奏の様子

寶榮座再生記録動画が、  
下記のQRコードから  
視聴できます。



## あすけ聞き書き隊（代表：浦野友理）

足助の聞き書き 第10集及び朗読集作成事業（申請回数：12回目）

- ・ 足助で暮らしてきた先人の知恵や苦勞、次代に受け継ぐべき心や事柄を聞き書き作品として文字や朗読で記録し、多くの方に知っていただくことで、郷土への愛着と誇りを育むことを目的に活動しています。
- ・ 今年度は足助聞き書き隊の集大成として、最終集となる第10集の発刊に向け、文章構成の仕方を学ぶ講座の開催や、聞き手同士がわからないところや悩みを相談しあう場を作るなどの活動をしています。



参加者が講座で学ぶ様子



聞き書きの様子



「朗読集」

## あいま～る



10時台の便もあるよ！  
～各地区週2日運行～



★ご利用例★ お昼をまたいで、ゆっくりと

### ○足助病院で診察やパレットで買い物など

10時 各地区始発 ⇒ 10時30分前後 足助病院到着 ⇒ 診察・買い物・昼食 ⇒ 14時30分 足助病院出発

### ○まちなかで買い物や金融機関など

10時 各地区始発 ⇒ 10時30分前後～ まちなか到着 買物・昼食 ⇒ 14時15分前後 町内便 ⇒ 足助病院到着  
14時30分 ⇒ 足助病院出発

※町内便から各地区便に乗り継ぐ場合は、運転士から「乗り継ぎ券」をもらってください。

個人用の時刻表がご入用であれば郵送します。お気軽にお問い合わせください。

また、バス停の新設や移設の要望は自治区で取りまとめているので早めにお申し出ください。

【問合せ先】

足助支所 ☎62-0601

こんにちは！足助包括です。

## 生活支援通所サービスの紹介

生活支援通所サービスとは介護予防が必要な人が対象のデイサービスです。体操や、脳トレ、創作活動、レクリエーション等に参加できます。

65歳以上の方で、介護保険の認定が要支援1・2の方、基本チェックリスト（※1）に該当した方が利用できます。足助地域包括支援センターにてお気軽にご相談ください！

### あすけのたまい場あいサロン

場所：足助病院 南棟  
曜日：月・水・金  
時間：9：30～12：00  
料金（※2）：  
1,284円/月（週1回）



（※1）基本チェックリストとは  
日常生活の状況、足腰の状態、物忘れなど25の質問項目により心身の機能が衰えていないかを確認することができます。  
（※2）利用料金  
1割負担の方の料金になります。介護保険の負担割合によって利用料金が異なります。

### 足助はつらつクラブ

場所：  
足助まめだ館、則定集会所、  
新盛集会所扶桑館  
曜日：月～金（午後は月・火のみ）  
時間（送迎あり）：  
午前 9：30～12：00  
午後 13：30～16：00  
料金（※2）：  
1,634円/月（週1回、送迎あり）  
1,284円/月（週1回、送迎なし）



**【問合せ先】足助地域包括支援センター（足助病院内） 62-0683（直通）**

※使用しなくなった保冷剤を集めています！包括まで寄付をお待ちしております！

## 社協だより



～そうだ！



（社協足助支所）へいこまい～



### 山ガチャ

～素朴なグッズ！おひとつどうぞ～



障がい福祉事業所が合同でガチャを作りました。中身は利用者さんが作ったキーホルダー、バッチなどの商品が入っています！！

何が出るかはお楽しみに！！

売り上げの一部は赤い羽根共同募金に寄付されます。

毎月設置場所を変えています！！

**イベント、行事など期間限定で設置しています。**

ぜひ近くにお越しの際は、回してみてください！！

**新しく足助で設置可能な場所を募集中です！！**

連絡先：豊田市社会福祉協議会足助支所

**TEL 62-1857**



## 足助中学校職場体験学習

# あすけ チャレンジWEEK

8月1日、2日、5日の計3日間、足助支所に3人の足中生が職場体験にやってきました!支所の様々な業務を体験してもらう中、同じように職場体験を行っている同級生へのインタビュー記事の作成に挑戦!3人の活躍をご覧ください!!

## 足助病院

体験生徒 鈴木彩心さん(取材:梅村咲生)

Q. この体験を選んだ理由は何ですか?

A. 足助病院の人にあこがれたからです。

Q. 気をつけていることは何ですか?

A. 担当の方の指示を聞くことです。

Q. 学んだことは何ですか?

A. 言葉遣いなどの人と関わり方です。



(左から) 安藤、河合、梅村



鈴木彩心さん



体験先の看護師さん

### 体験先の方からのメッセージ

一人一人の対応や関わりを大事にしてほしい!

## 足助もみじこども園

体験生徒 河合優太さん(取材:河合風稀)

Q. どんな体験をしましたか?

A. 子どものお世話をしました。

Q. どんなことを学びましたか?

A. 子どもたちが楽しめるような雰囲気を作ることです。

Q. 今後気を付けたいことは何ですか?

A. 子どもへの声掛けの仕方を気を付けたいです。



保育園で作業をする足中生



河合優太さん



こども園の先生たち



落合瑛太さん

### 体験先の方からのメッセージ

色々な経験を重ねながら、今しかできないことを目一杯楽しんでね!



**編集後記** ▶取材に協力いただいた皆様、ありがとうございました!!

▶梅村 咲生(うめむら さき)

インタビューを通して、どのような思いで職場体験をしているのか、この職を選んだ理由がしっかり決まっていた、目標をもって働いていることが分かりました。インタビューでは、質問に答える人が優しく答えてくれたため、インタビューをスムーズにすすめることができました。

▶河合 風稀(かわい ふうき)

インタビューをきいて心に残ったことは、うまくいかないことはあるけど視点を変えると楽しくなったりすることです。僕も勉強などで行き詰ってしまったら、視点などをかえて前向きに物事をしていきたいです。

▶安藤 蒼摩(あんどう そうま)

インタビューをしていると、人の思いや心情が分かって、すごく楽しかったです。取材では、みんな優しく、喋りやすい人たちで、スムーズに取材を進めることができました。

もしも足助に...

# 藍祭りがあったらこんな感じ？

皆さんこんにちは！ Periです！  
今日は、三州足助屋敷の藍染めを  
コンセプトに“藍染祭り”を描いてみました☆

藍色の提灯で  
町を青く照らします



敬老



## 警察の相談ダイヤル# 9 1 1 0

～緊急電話は110番 相談ごとは#9110～



警察では、緊急通報のための専用電話である110番以外にも、犯罪等による被害を未然に防止するための相談や県民の方々の生活の安全と平穏に係る相談に応じています。

「昨日知らない男の人に声を掛けられた」「身に覚えのない料金請求のメールが届いた」「嫌がらせのメールが届いて不安だ」など、緊急性のない事件や事故の相談は

**# 9 1 1 0** をご利用ください。

開設時間は、月曜日から金曜日（祝日、年末年始を除く）の午前9時から午後5時までです。

【問合せ先】足助警察署 ☎62-0110

いつもお読みいただきありがとうございます。今後もよりよい支所だよりをお届けするため、ご意見・ご感想・ご要望などいただければ幸いです。以下の連絡先へお気軽にご連絡ください。



人口と世帯数（令和6年8月1日現在）  
人口 6,766人 世帯数 2,740世帯  
令和6年度合計 出生5人 死亡32人

発行：豊田市役所足助支所 〒444-2424 豊田市足助町宮ノ後26-2  
電話：市民生活担当 ☎62-0600 地域振興担当 ☎62-0601  
FAX 62-0606 ✉asuke-shisho@city.toyota.aichi.jp